

大河ドラマ「光る君へ」(NHK・2024年)
主人公まひろ／紫式部役

吉高由里子さん



人を引き寄せる太宰府。

太宰府を訪れたのは
初めてですか？

福岡には何度か来たことがありましたが、太宰府へ伺うのは初めてです。今回太宰府へ行くことが決まった時から楽しみにしていました。実は、スペシャルトークショーの前日(11月22日)、ゆかりの地である大宰府政庁跡に行ったんです。政庁の建物はありませんでしたが、礎石などの古い建築基礎は今も遺されていて、当時は立派な建物があったんだなと感激しました。その後は、太宰府天満宮でお詣りしました。平日で人が少ないと聞きましたが、十分、多くの人が行きかかっていました！

まひろにとって大宰府は、どんなところ？

夫の藤原宣孝ふじわらののぶかたが赴任していたところでもあったので、親しみを感じていたのではないのでしょうか。源氏物語を書き終えて旅に出ることにしたとき、海を渡って商人がたくさん集まる大宰府は夢があると

ころだとワクワクしていたと思います。内裏の中の狭い世界、苦しい、争いではなくて、大宰府はもっと開放的な場所ではないかと感じながら演じていました。

第46回「刀伊の入寇」では、まひろは大陸から攻めてきた刀伊とひ(東女真族ひがししんぞく)の襲撃に巻き込まれましたが、大宰権帥ごんのそと・藤原隆家たちの活躍で命をとりとめます。平安な貴族の時代から武士たちの戦いの時代へ大きく時代が変わっていきます。

この「光る君へ」が、太宰府の皆さまの心に残る作品になるとうれしいです。





太宰府の子どもたちへメッセージを

自分を「許す」ことで楽になれることがあります。自身10代のころは、臆病だから自分を大きく見せようとして、限界を知らずに無茶もしていました。もつとできるのではないかと悔しがったり、自分を許せない部分も沢

山ありました。今では、だいぶ自分のことを許すようになりましたね。「諦め」ではなく「許す」という言葉に置き替えるだけで、すごく気持ち

もう一つは、人に合わせ過ぎなくて良いと思います。大人になってから振り返ると、学校はすごく小さな世界です。でも、その時はそれがす

べてになってしまえますよね。だから、その枠からはみ出る勇気が出ませんが、本当は、はみ出しても良いんです。苦しかったら、苦しいと言っても良いと思います。

最後に太宰府の皆さんへ一言

ドラマの終盤、まひろが行った大宰府に実際に伺う事

ができ、とても嬉しかったです。実際に訪れてみると、留まることがないほど人の往来があり、活気があることに驚きました。太宰府は人を引き

寄せるパワーのある魅力的な場所だと感じました。1年間「光る君へ」を見てくださりありがとうございました！

よし たか ゆり こ
吉高 由里子さん

Yuriko Yoshitaka

1988年生まれ、東京都出身。 2006年、映画「紀子の食卓」でスクリーンデビュー。

2014年に連続テレビ小説「花子とアン」でヒロインを演じ、大河ドラマでは2008年「篤姫」に続き2024年「光る君へ」で主役を務めた。

主な出演作にドラマ「東京タラレバ娘」「正義のセ」「知らなくていいコト」「最愛」「風よ あらしよ」、映画では「きみの瞳が問いかけている」など。

大河ドラマ「光る君へ」(NHK・2024年)
藤原隆家役

竜星涼さん



大宰府から次の時代へ。

太宰府を訪れたのは初めてですか？

これまで福岡には何度か撮影で来る機会はありましたが、太宰府は初めてです。僕、神社によく行くのですが、知り合いに「太宰府天満宮」と「天開稻荷神社」がおすすめだと聞いたので、今回楽しみにしてきました。

太宰府への印象は

太宰府天満宮と天開稻荷神社へ行きましたが、季節の訪れを感じられて心が洗われました。特に「九州最古のお稲荷さん」と言われる天開稻荷神社は、山に囲まれて景色も良かったです。

お芝居をやっているけど、どこか神に祈るようなところがあります。良いシーンになってほしいという感覚です。ロケの状況や天候、空気感もそうですし、偶然の産物でできる素晴らしいシーンもあったりします。最終的には、奇跡を信じてやっているところもあります。

大河ドラマへの出演はいかがでしたか？

大河ドラマに初めて出演して、藤原隆家という人生を見せる事ができたのは嬉しかったです。長徳の変をおこした最初の姿から、大宰府で大宰権帥として「刀伊の入寇」で活躍する姿まで、彼の成長の物語を演じる事ができたのは個人的にすごく良かったです。また「光る君へ」の雅な世界観の中で、最後は次の時代につながるころが描けたのも良かったなと思います。

夢に向かう子どもたちへメッセージを

失敗を恐れないことです。自分自身、俳優として本番で



は気張ることもありますが、そうではない時のほうが伸び伸びと演技できることもあります。程よい緊張も良いですが、「失敗しても良い。もう一回挑戦すればいい！」という気持ちが大切だと思っています。僕の経験上、失敗の中の方が「学び」や「気づき」が多くあるように感じます。皆さんにはこれからも、さまざまな事に挑戦しつづけてほしいです。

物語をふり返って

隆家にとって、大宰府に赴任して「刀伊の入寇」で戦ったことは、人生の大きなターニングポイントであり集大成でもありました。大河ドラマを見ている方には、日本にはこういうヒーローがいたんだと感じてほしいです。

現場にいる人たちにどれだけ寄り添える政治をするかということは、作品の中からもメッセージとして感じられることがあると思います。



りゅう せい
竜星 涼さん
Ryo Ryusei

1993年生まれ、東京都出身。2010年、ドラマ「素直になれなくて」でデビュー。2013年 特撮ドラマ『獣電戦隊キョウリュウジャー』の主人公に抜てき。2017年に連続テレビ小説「ひよっこ」、2022年に連続テレビ小説「ちむどんどん」で主人公の兄を演じる。2024年に大河ドラマ「光る君へ」で藤原隆家役。

主な出演作に「テセウスの船」「VIVANT」「ACMA:GAME アクマゲーム」など。2024年「潜入兄妹 特殊詐欺特命捜査官」で主演を務めた。